

「2023年度賃金引上げ等に関する申し入れ」の回答を受けて

2023年3月14日、中央本部は申9号「2023年度賃金引上げ等に関する申し入れ」の団体交渉を開催し、回答を受けました。しかし会社からの回答は、定期昇給（昇給係数4）の実施以外は要求から大きく乖離があることや、認識の一致が図れないことが多くあることから、席上妥結せずに持ち帰り、全地本代表者会議で組織議論を行ってきました。

各地本からは「この回答でJR総連春闘として統一要求・統一闘争でたたかってきたが、各単組との関係がどうなるのか」「生活向上分や物価上昇分として求めた1万円要求に対して、この回答はかけ離れている」「なぜベアの算出基礎に所定昇給を用いるのか」「私たちの要求は定期昇給完全実施以外、貫徹していない」「世間相場も出せない企業でいいのか」など回答に対する課題が様々出されました。

一方、「社友会や全国での低額相場がつくられた現実は打破することができた」「23春闘のたたかひを通じて組織強化と、JR東労組の必要性を訴えてきたことで過半数代表者選挙の勝利や、組織拡大を実現してきた」など、JR東労組運動の前進が確認できる意見も多く出されました。しかし、私たちの要求からは程遠い回答と議論経過を踏まえて、妥結の判断に至っていません。

3月14日、15日で千葉地本「緊急全機関代表者会議」を開催して、職場で奮闘しているリーダーと議論してきました。回答が出て組合員や未加入者と対話した内容を基に意見交換してみると「微妙な数字、でも定期昇給完全実施の実現は大きい」「ベアが出たことでほっとしている」などの意見もありましたが、多くは「21春闘のカット分程度しかない」「ベアに格差はいらない」「苦しい中で頑張ってきたのは全員だ。何故管理者だけ厚くなる」「1万円の要求に遠く及ばない」「収入が低くてもベアが出せるじゃないか。今までは何なのか」「エルダー社員は今の賃金では生活できない」「日勤職は、このベアでは生きていけない」「世間相場を出すことができない企業では人材獲得と人材流出に歯止めはかからない」「納得できないから1/4の根拠は明確にさせた方がいい」「物価上昇に追い付く手当が必要ではないか」「再申し入れするなら、主任以下に今回の回答とプラス1万円になるよう上乗せて要求してはどうか」など納得できないといった意見が多く挙げられました。一方では、「各職場でのたたかひをやりきれたのか」「社内世論を変えるために、怒りを持つ仲間をつくれたのか」など、自分に矢印を向けるリーダーも多くいました。

私たちの23春闘は、「社内外の世論形成は現実にあったこと」「支払能力は今までもあったこと」「常に自分が当たり前のように流されていること。その意識を引き戻すには東労組の組織議論によってしかできないこと」「たたかひによって低額相手を打ち破ることができたこと」を現時点の到達点であることを確認することができました。しかし、納得感のない職場の怒りを更に高め、本部交渉団と共に要求項目の実現や、回答根拠の明確化に向けてたたかひを継続していかなければなりません。

したがって千葉地本は、中央本部の申12号再申し入れを支持し、アンケートや対話を通じて組織強化・拡大に向けて、23春闘のたたかひを継続していくことを表明し、見解とします。

2023年3月17日
東日本旅客鉄道労働組合
千葉地方本部執行委員会